

中野区プラスチック削減指針の策定について

プラスチックは、安価で使いやすく生活に大きく依存しているが、不用意にごみとして捨てられ河川などに流れ込み、海洋環境や生物に深刻なダメージを与えている。プラスチックの海洋ごみによる生態系に影響を与えるリスクが世界的な問題となっており、2019年6月に開催されたG20大阪サミットで「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン(※)」が採択され、その実現に向け、国、自治体や企業などが様々な取組を進めている。

そこで、区においても市内の使い捨てプラスチック削減に向けた取組を推進するため、「中野区プラスチック削減指針」を策定し、同指針に基づき、環境に配慮した行動を実践していくこととする。

(※) 2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロとすることを目指すこと。

- 1 中野区プラスチック削減指針について
別紙のとおり

中野区プラスチック削減指針

＜基本理念＞

プラスチックは、安価で使いやすく、生活に大きく依存していると言えますが、不用意にごみとして捨てられ河川などに流れ込み、海洋環境や生物に深刻なダメージを与えていることが、地球規模で問題となっています。

2019年6月に開催されたG20大阪サミットで共有された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン(2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロとすることを目指す)」の実現に向け、一事業者である中野区が率先してプラスチックごみの排出を削減し、区民・事業者等の取組を喚起していく必要があります。

そこで以下の指針に基づき、中野区は廃棄プラスチックの削減を行い、環境に配慮した行動を実践していきます。

＜行動指針＞

- 1 区が主催または共催するイベントや会議において、使い捨てプラスチック製品・容器包装の使用を可能な限り削減することとし、繰り返し使用できるもの又は紙製品や非木材パルプ(タケやサトウキビ等の木材以外の種子植物)製容器等の利用に努める。
- 2 職員一人ひとりがマイバッグやマイボトルの活用をはじめ、使い捨てプラスチック製品及び容器包装の使用を減らすよう努める。

2020年7月15日

中野区長 酒井 直人